

やまぐち子育て福祉総合センター実績報告

専門研修

「保護者（家族）支援 Part II

保護者とのより良いコミュニケーションのためにー保育チームワークをふまえてー」

日 時・・・1月21日（土）14：30～16：30

場 所・・・山口市立山口保育園 2階遊戯室

講 師・・・武庫川女子大学 教授 倉石哲也 先生

参加人数・・・117名

講座内容・・・

テーマ1：保護者との協働関係

1、『新制度における「保育の必要性」の事由』から考える
現実的には課題やリスクを抱えた子どもとその家族を地域と共に支えることは事実必要
「地域子育て文化の醸成」は「包括ケア」を実現する為に喫緊の課題

2、事例から学ぶ

①複数の事例紹介（子どもと保護者の状況、保育者の対応など）

②事例から考えること

（1）保護者の支援慣れ現象

・当然の権利、サービスを買っているという意識

（2）保護者を“お客さま化”させない仕組みづくり（参加と参画）

・「保護者力」を見出し、活用する（事例：保護者の一日せんせい体験）

・出来ない部分をカバーしあう（事例：送迎時間等の可能な範囲で参加するお片付け隊）

（3）保育所のアカウントビリティー（説明責任）

（4）施設長のリーダーシップ（教育保育理念の伝達）

（5）保育者の意識改革

保護者から学ぶ姿勢、パートナーシップ

テーマ2：愛着（アタッチメント）の理解

1、愛着（attachment）とは

ジョン・ボウルビー（英の医学者、精神科医、精神分析家）

「子どもが不安を感じたり、危機的だと感じる状況で、特定の養育者との間で情緒的な安定を取り戻そうとする行為」（養育者とは日常的に関わる大人）

愛着についての現代の認識は

①愛着は母との間だけで成り立つのではない

②母性神話（女性にはもともと母性が備わっているという考え方）

を助長するものではない

③子どもの「養育者」は複数（多数）存在する

④養育者が頻繁に交代しないことが重要である

2、愛着がもたらす発達上の影響

- ・生涯にわたる自分・他者・社会への信頼体系の形成
- ・不安を感じた時に、信頼できる大人との間で愛着関係が丁寧に繰り返されることで、子どもは人への信頼、自分への信頼、自分を取り巻く世界への信頼を獲得
- ・愛着不全は愛着障害や人格障害に至る危険性伴う
- ・愛着障害は対人関係障害、衝動性、攻撃性伴う
(サイレントベビー、他者が近づくと逃げたり攻撃したりするなど)

3、愛着関係の形成

- ・親の愛着スタイル×子どもの特性＝子の愛着行動

↓

発達でこぼこの子どもとの愛着形成は困難を伴う

発達でこぼこと愛着障害の関連性は高い

- ・親の愛着スタイルは、親の被養育体験が影響

※1歳～1歳半までが愛着関係を築く一番大事な時期。もしその時期に愛着関係がしっかりできなかった場合、その後6歳までに修正が可能。それ以降になると難しい。

4、子どものアタッチメント（愛着行動）

①A型（回避型）・・・全体の10%

- ・親子分離で混乱を示さない。むしろ遊びに集中している。

②B型（安定型）・・・70%

- ・分離時に混乱するが、再会すると落ちつく（情緒安定）

③C型（不安定・囚われ型）・・・10%

- ・分離に激しい苦痛を示し、再会してもネガティブ感情を引きずり、養育者への激しい怒りや抵抗を示す。

④D型（無秩序・無組織型）・・・10%（このタイプが今世界的に増えている）

- ・①～③に比べ、無秩序。顔を背けて接近する。うつろな表情を示すなど。

①+③+④型

5、親のスタイルと子どもの行動の関連性

養育者の愛着スタイル

- ①安定・自律型（愛着への価値高）
- ②愛着軽視型（愛着の重要度を低く認識）
- ③とらわれ型（愛着対象への怒り・恐れ）
- ④未解決型（整合一貫性なし）

養育者の愛着スタイル

- ①Aタイプー回避型
- ②Bタイプー安定型
- ③Cタイプーアンビバレント型
- ④Dタイプー無秩序型
- 親①と子②、親②と子①、親③と子③
- 親④と子④

※子どもの愛着スタイルをみながら親の愛着スタイルをみていく。

6、養育者の愛着スタイルの分類

①安定型の保護者

- ・子どもの不安や怒りの読みとりができ、落ちついたやりとりができる
- ・養育行動にある程度の一貫性がある
- ・保育者に助言をもらっても、子どもの様子を見て子どもに合わせてながら対応できる
- ・周囲の人に信頼関係を気づくことに困難を感じない。

②愛着軽視型の保護者

- ・子どもや保育者に対してあまり接点をもたがらず、子どもの育ちに関心がない
- ・子どものマイナス感情やスキンシップを好まない
- ・周囲の人間に信頼関係を築くことをしない

③不安定・囚われ型の保護者

- ・子どもを自分に合わせようとする自己都合が多い
- ・質問が多く、助言をもらおうと子どもの様子を見ずにすぐやろうとする、
- ・子育ての情報が過多で不安定、親への怒りや不安を強く出すような表現もある
- ・周囲の人間と安定した人間関係が作りづらい

④未解決型の保護者

- ・精神的に不安定、子の行動に過敏であったり、抑うつ的であったりと波がある
- ・現在（過去）に困難体験を抱えており、そのことを語る（語れない人もいる）
- ・家族に外傷体験を抱えている（トラウマ曝露など）周囲の人間関係は限定的で孤立的
- ・心の病を抱え、養育関係はうまくいっていない

テーマ3：愛着の回復を目的とした親対応と親支援

1、愛着の回復を目的とした親対応

①タイプは変わらない（変えようとしない）

- ・愛着スタイルは育てられ方から脈々と流れている
- ・心理的な負担がかかる状況での親のタイプ
- ・“体験していないこと”は“できないこと”
- ・親の愛着スタイルを認めていく保育者の姿が重要

②子どもの愛着行動を変える

- ・養育者により、子どもは愛着行動を変える
- ・親と保育者の愛着行動を一致させることを焦らない
- ・保育者は「安定型」のスタイルを子に見せる
- ・子の保育者への愛着行動を親に見せる（丁寧に関わりを見せていく）
- ・親が気づく（問いを発す）のを待つ →「なぜ先生が言うと素直に聞くの？」
- ・保育者は育てられ方との関係を意識する

- ・保育者も親と苦勞を共にする

③保育者の愛着行動の了解を得る

- ・保育が目指す愛着スタイルを説明できる
- ・保育者の愛着と親の愛着が異なることを保育者が受け容れる
- ・保護者の愛着スタイルを肯定的に評価する
 - 保育者が親をマイナスに見てしまうと、子どもと保育者の関係も崩れてしまう
- ・保育者の苦心を親に伝える 「園でもうまくいかないこともあるんですよ」

④タイプ別対応

- ・安定型：日常的な関わり、雑談の重要さ
 - 雑談から見える保護者のニーズ
 - 子どもの様子を的確に伝える
 - コミュニケーションスタイルを尊重する
 - 勞いを忘れない
 - ・不安定型：子の「行動」面に過敏になる傾向
 - 即効性のある情報や助言を求める
 - 親の関わりを丁寧に聞き出す「今、お母さんはどうされてるの？」
 - 親の試みを評価する「こういう風ががんばろうとされていたんですね」
 - 親の思いに共感する
 - 子どもの気持ち・思いを想像する（代弁する）
 - ※親の「自分を受け容れてもらえた」「私はこれでいいんだ」という自己受容がすすむと他者受容がすすむ。
 - ・回避型：「自己」への意識やストレスが強い傾向
 - 子ども理解を促すことを焦らない
 - 親自身への対応を丁寧に考える
 - 仕事、休日の過ごし方、趣味などにも心を配る
 - コミュニケーションの間合い
 - 観察は忘れない（服装、お子さんの様子、表情など）
 - ・未解決型
 - 親自身の警戒心
 - 保育への動機づけ（信頼感）の低さ
 - 安心・安全基地—親が安心する対応
 - ※保護者にとって安心できるところになる
 - 保護者の日頃の苦勞を本当に理解し、気持ちを傾ける
 - 保育者の対応を変えることでよい関係ができていく
- ## 2、関係性を作る視点：親の語りをどう受けとめ、解釈するか
- 変わってほしい親であるほど、その親に対する保育者の意識を変えることが大切。

「この方には何とって話しかけたらいいだろうか？」

「どんな話をしたら楽しく話せるだろう？」

保育者自身の気持ちを修正する。

生活態度がどうであっても、言っていることとしていることが違っていてもその事実でなく、その保護者の思いを受けとめる。

支えようとする時、その人に「でもがんばっているよね」と言えるかどうか？

3、指示・助言に留意する

指示・助言のルールとして

①正論を簡単に言いすぎない

②ストレスや困っていることにどうやって対処しているのかを丁寧に聞く

「そういう時あなたはどのようにしているの？」など

③相手の対処スタイル（行動）を丁寧に確認して、いいところやがんばっているところを最大限評価することを試みる

④常識的に全うな支持や助言の中で、本人が最もできそうなことを支援者が2つか3つは持っておく

→母の回答によって、どのようなレベルの指示が受け入れられそうなのか考える

⑤指示は具体的に提案。実行方法、実行手段、事態の想定、出来ない時にどうするか、など親と一緒に細かく手順を考える。

⑥母親だけの指示にとどまらず、家族等への指示を忘れない。

「〇〇をお父さんに頼むとかはできそう？」など

⑦具体性があり、達成可能なこと

⑧達成できない事態を想定する

⑨大きいリードを防ぐ（焦らない）

4、愛着の回復

愛着の回復を目的とした親支援1

①一貫した日常の儀式

ある程度パターン化した対応の重要性→安心につながる

②職員の対応と見守り

担任との安定した対話やコミュニケーション

全職員による安定した見守り（挨拶、名前を呼ぶ、声かけなど）

※愛着が不安定な保護者は、担任とはよくても、それ以外の人だと逆に不安を持つ傾向があるので、出来るだけたくさんの職員が目が合ったら挨拶する

→見守られ感覚の獲得→安心感

③波長合わせ（同調）

保護者への関心を示す

保護者の“波長”に合わせる→承認される感覚の獲得

※保育者から保護者の関心のあるところにどんどん入っていき、心から興味を持って
つながっていく 難しい保護者にどういうところから合わせていく？

※保護者が信用してくれると、SOS も早めに出してくれるようになる

愛着の回復を目的とした親支援2

①肯定的な自己概念の獲得

- 1) 保育所への安心感／信頼感
- 2) 保育者に支えられている安心感

②自尊感情の高まり

- 1) 他者の役に立つ体験
- 2) 他者から評価を受ける体験
- 3) 他者とつながりを持つ体験

保護者に「ありがとう」と言える場面や機会をつくる

テーマ4：精神的な困難を抱える保護者への支援

精神的な困難を抱える保護者への支援

1、トラウマを抱える保護者

未解決な外傷体験

「信頼」や「安全・安全」が脅かされる体験

2、子育てへの影響

①予測不可解な行動を子どもの前で示してしまう

→乳児にとっては混乱と恐怖に満ちた体験となってしまう

②胎児をなくしたり、災害を体験したり DV をうけたりして、かつ、なんらのサポートもされることなく語りごとなく心の奥にしまいこんで未解決なままであった場合、おびえたり子どもを見ると涙が出たり不安になったりする

→自分のつらさが子どもに向き、子どもを不安定な状況に陥らせる

③親自身が自分の親から受けた自己信頼感、自己受容感、自己肯定感が育児態度・行動に影響する。

孤独な育児の中で、様々なま感情を他に向き替えられず育児行動に反映せざるを得なくなる。孤独な育児行動が、母親の否定的な側面を引き出し、自分の中の未消化な感情に圧倒される。赤ちゃんの泣きや要求に怯える。

→父親のサポートの重要性

地域子育て支援の必要性

3、こころの病

うつ

①状態像

- ・日本人には多い
- ・他者にどのように見られるか敏感
- ・しかし他者の気持ちの読みとりは弱い
- ・「語り」が弱く「情緒的表現」が強い
- ・マイナス感情が繰り返される
- ・支援者を巻き込む（ことで安定＝心配してもらいたい）

②保育（支援）者としての対応

- ・長く話を聞かない
- ・短く聞く。繰り返す（挨拶だけでも OK）
- ・情緒レベル対応しない
- ・行動レベルでの評価を心がける（食事、睡眠、家族と過ごす時間など）
「ごはん食べられた？」「眠れた？」できているところを聞く。
- ・助言と共感は極力控える（体調には関心を）
- ・相手に考えてもらい、決断を促すようにする
- ・右肩上がりの回復を期待しない
- ・ネグレクトへの注視は忘れない

境界性パーソナリティ障害（情緒不安定性人格障害）

- ・対人関係不安定で、相手を理想化してしがみつくと、また一方で相手が思うように対応してくれないと急に攻撃するなど一貫しない。周囲の人が傷つき、振り回されることがある。
- ・抑うつ、かんしゃく、強い怒りを示すなどの衝動行為、自傷行為や自殺のおどしやそぶり、過食、性的逸脱、薬物濫用、浪費などの問題行動を示す。
自己像の混乱した状態が原因。
- ・距離を上手にとる。一人で抱えたり深追いしない。周囲に相談する。

パーソナリティ障害

①状態像

- ・自己と他者の区別がつきにくい
自分の思いを他者が理解し受け入れることのみを願望する
他者の立場（都合、考えや気持ち）に立つことができない
- ・自分の思いを他者に「投影」する
自分が不安＝相手が自分を無視している
自分がイライラ＝相手の対応が悪い
自分の問題として内省できず、相手の責任にすり替えてしまう
- ・他者とつながる手段としての「問題（状況）」

②保育（支援）者の対応

- ・簡単に改善しないことを理解する

- ・相手を落ち着かせようと思わない
- ・自分が落ち着くことを考える
優しくしたり、冷たくしたり、気になったり、突き放したり…一貫性が崩れる
- ・自分の心に相手が「侵入」する
- ・対応を一貫させる（相手の情動に影響を受けすぎない）
- ・冷たい人間だと思われることを恐れない
- ・一定のルールを保つ
- ・ルールを決める（やりとり、電話、手紙、様々な条件）
→相手は不安定になり問題を作り始める
→ルールを破ろうとして他者責任を作る
- ・チームとしての落ち着きと役割分担（所内、市との関係、ネットワーク）
- ・所内・外の共通理解に努める

4、こころの病を持つ保護者への対応

保育（支援）者の関わり

- ・「礼儀正しさ」を保つ
- ・親の語り（言い分）を聞きすぎない
- ・「(一般的な) 助言」はストレスとなる
- ・評価する<長所の指摘>
「本当によくやっている」「完ぺきにやらないでね」「手伝ってもらいましょう」
- ・落ちついた、丁寧な対応＝複数対応
- ・「争い」よりも個別具体的な「補助」を考える
- ・諦める

5、親がこころの病を持つ子どものケア

(1) 子どもが抱える苦勞

- ・親のことを隠す
- ・自分も目立たない
- ・自信が持てない

(2) 子どもの養育者への思い

- ・自分を責める
- ・自分の話を聞いてほしい

※子どものことを忘れがちだが「先生がいつでも見ているよ、支えるよ」と示すこと

テーマ5：ネットワークとチームワーク

1、チームワーク

「チーム」とは何か？

- ・役割の認識—野球チームに例えて・・・全員が4番ではない＝長所で貢献する

- ・ 個人の力を発揮する
 - ・ できないことをカバーしあう
 - 経験、苦手意識、相性もある
 - ・ 園長は監督、副園長は参謀、主任はコーチ
 - ・ 与えられた職員チームで実践力を高める（戦う）
 - ・ 応援団を集める
 - ・ 失敗を糧にして「学ぶ」姿勢
 - ・ 責任の取り方
 - 個人責任と全体責任（うまくできていないとすればそれは個人でなく全体の責任）
 - 最も重要なのは共傷性
 - 個人ではなくチームが傷つく感覚の重要性
 - 若い人材を“守る”、ベテランが前線に立つ
- ※保護者対応の仕方も先生によってタイプがある
お互いの関わり方の個性を認め合い、支えあう